

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)鎌倉市小袋谷2丁目計画	階数	地上8F
建設地	鎌倉市小袋谷二丁目460-1	構造	RC造
用途地域	第二種住居地域、準防火地域	平均居住人員	165 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年2月 予定	評価の実施日	2016年8月15日
敷地面積	1,966 m ²	作成者	株式会社オンステュー級建築士事務所
建築面積	832 m ²	確認日	2016年8月20日
延床面積	4,360 m ²	確認者	ワールド環境



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合 当該計画地はJR大船駅の南南東部に位置し、近隣には多くの共同住宅・戸建住宅等の建物があり、また商業施設等も点在する地域である。本計画立案に際し、近隣環境を崩さず、いかに同調させるかに配慮します。(建築物の規模・外観等) 又、配置計画においても、出来るだけ緑地を増やし、空地率・緑化率の増大に配慮します。		その他 特に有りません。
Q1 室内環境 音環境に関しては、重・軽量衝撃音の低減を重視した。温熱環境に関しては、品確法による等級3のレベルで断熱材を施工する。	Q2 サービス性能 耐用・信頼性に関しては、建築物の耐用年数を長くするために品確法(劣化)による等級3の材料で施工します。住宅設備等に関しても、品確法(維持管理)による等級2のレベルで施工します。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内環境に関しては、敷地の空地率をできるだけ増加させ、その部分への植栽を計画しております。又、空地率の増加に伴い風等の影響低減に考慮しました。
LR1 エネルギー 省エネルギーに関しては、集合住宅であるので共用部分の照明機器等に省エネルギー仕様の製品を使用致します。また、給湯器にはエコジョーズを設置します。	LR2 資源・マテリアル 汚染物質に関しては、空調機器にはフロン等の環境汚染物質は使用しません。	LR3 敷地外環境 周辺環境に関しては、ベランダ手摺を壁と近隣へのグレアの影響を低減します。又、外壁の表示等は発光するような物は使用しません。廃棄物に関して、有価物であるビン缶等は集団回収を計画しており、生ごみの減量化としてディスプレイを設置している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される